



觀
始
盧允坊撰

5
4529




~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

人

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~







Handwritten text in Arabic script, consisting of approximately 12 lines of dense cursive writing.

Handwritten text in Arabic script, consisting of approximately 12 lines of dense cursive writing.







御用

きのほき平経心起し不の泣  
童早  
き花よしのこさくくあしてあまのほ  
有終  
と願、園のふかきこころ

あまのほき平経心起し不の泣  
童早  
き花よしのこさくくあしてあまのほ  
有終  
と願、園のふかきこころ

東馬坊と道三二三各一辨一  
八月十日

あまのほき平経心起し不の泣  
童早  
き花よしのこさくくあしてあまのほ  
有終  
と願、園のふかきこころ

あまのほき平経心起し不の泣  
童早  
き花よしのこさくくあしてあまのほ  
有終  
と願、園のふかきこころ

觀雙塔碑前

あまのほき平経心起し不の泣  
童早  
き花よしのこさくくあしてあまのほ  
有終  
と願、園のふかきこころ

あまのほき平経心起し不の泣  
童早  
き花よしのこさくくあしてあまのほ  
有終  
と願、園のふかきこころ



初七日 方仙表

北野連中

石記

霧の目しころくす月日守

神の幸れ極し極し 栗羽

もろくまのふたぢりて 六三

眼のいしよし海を望法 与岐

あさきんし十国十色の二流位 栗八

こまけし馬とふまの毛津 枕平

古詩

待しアそそりてまの夕は春 三三

あさ色の枝とまむは極み 栗八

あさしと極しとや一七日 新

二十七日 石記一紙

長良連中

有琴

原の鞍の貸しとく 柳

雲ふとあしとあしと 七柳











花のちいしと大工の 吏前

夏の日御しらぬるなり 杜堯

名詠

蓋とわらふ花の白く花の 松岡

散るし梅の籠のふらふら 杜堯

月よりしききとてしづの 吏前

城よりしききとてしづの 吳井

花のちいしと大工の 松二

散るし梅の籠のふらふら 芳林

月よりしききとてしづの 龍正

城よりしききとてしづの 正房

花のちいしと大工の 西堂

散るし梅の籠のふらふら 龍起

月よりしききとてしづの 五明

城よりしききとてしづの 伴七



しつとふはるる

蓋ね連中

海に七橋のまき一海の日 舟丁

まき一海の日と舟のまき 連支

二石のまきと茶餅のまき 建橋

印表のまきと海にまき 記左

船にまきと舟のまきと 海亭

八軒のまきと舟のまきと 相立

夕朝もつと小窓の町とつん 危地

海の小窓の町とつん 相立

海にまきと舟のまきと 標橋

まきと舟のまきと舟のまき 舟

舟のまきと舟のまきと舟のまき 舟

舟のまきと舟のまきと舟のまき 舟

舟のまき

舟のまきと舟のまきと舟のまき 舟

舟のまきと舟のまきと舟のまき 舟







葉様も穂も心持して行月あ 文推  
 一とゆきも 暮入のしんれ 格夕  
 白粉のま粧とまぢの穂 下社  
 丹波の心持のまぢの穂 秀由  
 雨乞のまぢの穂 格七  
 五糸の穂も一打のまぢの穂 伝布  
 一とゆきも 暮入のしんれ 七有  
 一とゆきも 暮入のしんれ 格七

一とゆきも 暮入のしんれ 伝次  
 一とゆきも 暮入のしんれ 格七

各節

一とゆきも 暮入のしんれ 伝次  
 一とゆきも 暮入のしんれ 格七  
 一とゆきも 暮入のしんれ 格七  
 一とゆきも 暮入のしんれ 格七















連翹のむやむや〜〜〜佛 憂の  
 柳木のふゆふゆ〜〜〜木の高 此柳  
 藤木の角あ〜〜〜木のふれま 杖の  
 香木のさくさく〜〜〜の穂ふゆ 尺蠖  
 師の強も〜〜〜木のぬきま 主枝  
 ら〜〜〜木のぬきま師のぬきま 末巴  
 ち〜〜〜木のぬきま師のぬきま 奴也  
 ま〜〜〜木のぬきま師のぬきま 竹魚  
 ま〜〜〜木のぬきま師のぬきま 白雲

うけぬくあ〜〜〜木のぬきま 遠く

うけぬくあ〜〜〜木のぬきま

藤木のさくさく〜〜〜木のぬきま 観公  
 蕙木のさくさく〜〜〜木のぬきま 長傳  
 柳のさくさく〜〜〜木のぬきま 此角  
 ら〜〜〜木のぬきま師のぬきま 二考  
 ま〜〜〜木のぬきま師のぬきま 其指







新刊抄

Handwritten text in cursive script, consisting of several lines of characters.

Handwritten text in cursive script, appearing as a single line.

Handwritten text in cursive script, appearing as a single line.

Handwritten text in cursive script, appearing as a single line.

部ノ連判中

Handwritten text in cursive script, consisting of several lines of characters.



文海

さよふ書とありておの入りりぬ 白 酒跡  
 酒樂合ふふりてや 日 松枝  
 さよふ書とありて 白 鏡月  
 さよふ書とありて 青如 榎方  
 さよふ書とありて 千定 玄華  
 さよふ書とありて 日 星栢  
 さよふ書とありて 神戶 木こ  
 さよふ書とありて 日 酒樂合

けしきもさしり 白 柳ん 白 雲  
 けしきもさしり 白 柳ん 白 雲

白雲のさしり 白 柳ん

さよふ書とありて 白 柳ん 白 雲  
 さよふ書とありて 白 柳ん 白 雲  
 さよふ書とありて 白 柳ん 白 雲  
 さよふ書とありて 白 柳ん 白 雲



Handwritten text at the top of the right page.

Handwritten text below the top line on the right page.

Handwritten text on the right page.

Handwritten text on the right page.

Handwritten text on the right page.

Handwritten text on the right page.

Handwritten text on the right page.

Handwritten text on the right page.

Handwritten text on the right page.

Handwritten text on the right page.

Handwritten text on the left page.

Handwritten text on the left page.

Handwritten text on the left page.

Handwritten text on the left page.

Handwritten text on the left page.

Handwritten text on the left page.

Handwritten text on the left page.

Handwritten text on the left page.



あはれなる御用をなする御心  
あはれなる御心

遠きものしきとさるる  
玉

遠きものしき

維新のあはれなる御心  
玉

あはれなる御心  
玉

あはれなる御心  
玉

玉

悼松子存遠る人

あはれなる御心  
玉

あはれなる御心  
玉

あはれなる御心  
玉

あはれなる御心  
玉

あはれなる御心  
玉

あはれなる御心  
玉

あはれなる御心  
玉



尾張

名方を連中

120の遊のCinnamomum 211 212  
The name of the plant is

さくらんぼのせんと遊のさくらんぼ 已静

さくらんぼのせんと遊のさくらんぼ  
さくらんぼのせんと遊のさくらんぼ  
さくらんぼのせんと遊のさくらんぼ

さくらんぼのせんと遊のさくらんぼ  
さくらんぼのせんと遊のさくらんぼ

子鳥を連中

梅子のCinnamomum  
さくらんぼのせんと遊のさくらんぼ

さくらんぼ

一枚

梅のさくらんぼのせんと遊のさくらんぼ

さくらんぼのせんと遊のさくらんぼ 比誰

二七〇

鳥中

さくらんぼのせんと遊のさくらんぼ

さくらんぼのせんと遊のさくらんぼ 一枚







其のち梅のあはれ梅のあはれ  
 公の梅のあはれ梅のあはれ  
 二月のあはれ梅のあはれ  
 花のあはれ梅のあはれ

梅のあはれ梅のあはれ  
 梅のあはれ梅のあはれ  
 梅のあはれ梅のあはれ

梅のあはれ梅のあはれ  
 梅のあはれ梅のあはれ

梅のあはれ梅のあはれ  
 梅のあはれ梅のあはれ  
 梅のあはれ梅のあはれ

梅のあはれ梅のあはれ  
 梅のあはれ梅のあはれ



飛騨

高松藩中

花七

其由

ひもしやちる早 地はあのみ

原を居る松葉の波くる句 慈恵

山押の活竹の陰もすこむら下 布流

味もあまきぬく裏の 雨乞

もしい花は月を離れしゆく 中水

鴨子とあはる白雲冷つ 牛草

花石

白芍薬をふよからぬ 新巻

葉下しゆくは心も 信ら 布流

あつし絵の巻とまきりて 牛草

ゆく月の影のまじりて 慈恵

あ月の影もあはるのまじりて 牛草

いづれもあはるのまじりて 牛草



月九

春の初めのころに曉月

春の

むきの初めよふ鳥のさき 午方

あつらひのさきよふのさき 暮方

ふたつとあつらひのさき 暮方

まねのさきよふのさき 暮方

いづれかきとあつらひのさき 暮方

月右

あつらひのさきよふのさき 暮方

いづれかきとあつらひのさき 暮方

あつらひのさきよふのさき 暮方

いづれかきとあつらひのさき 暮方

あつらひのさきよふのさき 暮方

いづれかきとあつらひのさき 暮方



長師不孝の白文の事は知らぬ事にして  
 頃とて之の口をさかしくかたは法士の  
 うち二つとある師士の二封符の事  
 ありありとて一とある事とある事  
 白文とてある事とある事とある事  
 ありありとてある事とある事とある事  
 悲哉滅亡の事とある事とある事  
 在世の顔とてある事とある事とある事

草石

松葉の白文の事とある事とある事  
 松葉の二毛とある事とある事とある事

くらあつてある事とある事とある事  
 清くある事とある事とある事  
 ありありとある事とある事とある事  
 休むとある事とある事とある事

草石

ありありとある事とある事とある事  
 ありありとある事とある事とある事







竹細のしほささきささき  
 松茸の白くさくさ玉節の  
 柳ささきささきのささき  
 ちの木のしほささきささき  
 煙草のささきささきささき  
 辻の抱きささきささき  
 表のささきささきささき  
 けさささきささきささき

文圭

知色

高田 大推

味非

糸のしほささきささき  
 漆のしほささきささき  
 布のしほささきささき  
 糸のしほささきささき  
 糸のしほささきささき  
 糸のしほささきささき

津水

布流

寸流

寸有

寸有







Handwritten text in a cursive script, likely a historical or religious document. The text is written in a dark ink and is arranged in several lines across the page. The script is somewhat faded and difficult to read, but it appears to be a form of historical or religious writing. There are some small marks and stains on the page, particularly near the bottom right corner.

Small handwritten text or signature at the bottom right corner of the page.



